

郷土かみのかわの歴史・文化財

町指定文化財 駕籠（かづ）

今月紹介するのは普門寺の「駕籠」です。駕籠は人力で人を運ぶ乗り物で、江戸時代に良く使われました。誰もが所有できるものではなく、担ぎ手が必要になることから、ある程度の身分がないと持つことができないものでした。

上三川町内で残っている江戸時代の駕籠は数も少なく、それだけで大変貴重なものなのですが、普門寺の駕籠は、それに加えて、上三川の忘れられた歴史を刻む貴重な資料でもあるのです。

平安時代の末期から、上三川の地を支配したのが宇都宮氏であることは、皆さんもご存知のことだと思います。そして、宇都宮氏は後継者争いが原因で、上三川城の落城悲話に代表されるような争いごとを内部で起こし、1597（慶長2）年に改易されたことも、とても有名な話です。しかし、その後誰が上三川城

の支配地の領主になったかを、知っている人はほとんどいないのではないのでしょうか。

豊臣政権下、宇都宮氏の改易に見られるように、大名の配置転換は頻繁に行われていました。小田原の北条氏に味方し、豊臣秀吉と戦ったため領地を没収されたにもかかわらず、娘が秀吉の寵愛を受け、たことにより、烏山（現那須烏山市）に二万石の領地を得ることができた成田氏もその一人です。成田氏は、1600（慶長5）年の関ヶ

原の戦いに際し、徳川家康方について、会津の上杉景勝の南下に備え防備をしました。結果として、家康は背後から敵に攻められる心配が無くなり、石田三成に勝利することができました。その功績として、領地が一万七千石加増されたとの説があります。そして、その中に上三川一万石（旧上三川町と旧明治村の一部）

が含まれていたと考えられるのです。しかし、1622（元和8）年に相続争いが起こると、江戸幕府により領地が没収され、お家断絶となったのでした。

成田氏の支配した期間については諸説ありますが、最大でも22年と短い期間でした。その期間中に、検地を行うなどの支配体制の強化に努めるなど功績を残しました。一方で、宇都宮氏改易後に荒廃した寺院の再建も行い、領地を与えるなどして保護していたこともわかっています。普門寺の駕籠は、忘れ去られた成田氏の足跡を今に伝える貴重な文化財といえるのです。



普門寺の駕籠

																		時代	
1615	1614	1613	1607	1606			1603	1601	1600	1598	1597	1595	1593	1592	1591	1590	1589	1588	西暦
元和5	慶長19	慶長18	慶長12	慶長11			慶長8	慶長6	慶長5	慶長3	慶長2	文禄4	文禄2	文禄元	天正19	天正18	天正17	天正16	元号
大坂夏の陣。豊臣家滅亡。	大坂冬の陣。	幕府、伴天連追放令を出す。	宇都宮国綱、武蔵国石浜の地にて40歳にて病没。	阿久津河岸が、鬼怒川遊行終点河岸として開設される。	と屋敷地1箇所を賜る。	烏山城主成田重長逝去。	徳川家康、征夷大將軍となる。	成田氏、村請免状を交付する。	このころ上三川と明治の15ヶ村、烏山城主成田氏の支配地となる。	豊臣秀吉死去。	宇都宮氏改易。上三川城・多功城廃城。	成田氏長、病没する。成田家の家督を弟長忠が継ぐ。	宇都宮国綱、朝鮮に進軍。	宇都宮国綱、豊臣秀吉から朝鮮征伐のための出兵を催促される。	豊臣秀吉、全国の諸大名に朝鮮征伐を発令する。	豊臣秀吉、小田原攻撃。北条氏滅亡。	北条氏直の軍勢、宇都宮に攻め入り、多気城を攻撃する。	豊臣秀吉、刀狩を行う。	できごと